

創学舎ニュース

No.276

燃えろ

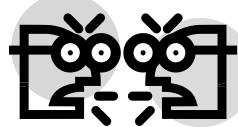
受験生！(2)

●勉強がうまくいっている時、その科目をやる意義、受験制度の意味などについて疑問を抱くことは少ない。でも、思うように動けなくなつた瞬間に、受験生はいろんなことを考える。本当はやらねばならない、伸びたい、合格したいと思つているのに、それに向かつて動けない苦しさ。これは確かに苦しい。その苦しさは、誰にも分かつてもらえない。周りは、思い通りに動けないキミを見て口を出す。「そんなことや受からない。」「受験生なのに、何をふざけたことをしているんだ。」「お前のためにどれくらい苦労していると思うんだ。」「もっと頑張れ。」「これからテレビは一切見るな。メールも禁止。」「いろんな表現でキミを結果的に追い詰める。その表現の背景には、キミへの愛情や、うまくいっていない大人の自分自身の人生への後悔や、家庭内で子育てを丸投げされているキミの母親の苦悩や、様々なものが存在しているのだが、そんなことは、今のキミには関係ない。キミは、幼いし、分かっていないことが多すぎるし、人生経験も少ない。」うるさい。「分かつているよ。」「ほっといて

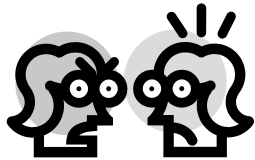


くれ。おれの人生だ。」そう怒鳴る。それでも、怒鳴つても自分が思っていることは言い尽くせない。言い尽くせないどころか、次々に心の中に様々な感情が湧いてくる。そして、自分でも自分のことがよく分からなくなる。

●でも、何とか自分を守らなければならない。壊れかけた自分を何とかしなければ……。そこで、動けない自分への言い訳がど



んどん出てくる。「数学なんかやつたつて、社会では何の役にも立たない。」「いい学校に入ったつて、どうせお父さんにみたいな人生だろ。」「受験なんか無ければ



いいのに。」「受験なんかどうでもいい。どこだつていいんだ。」「どうせやつたつて伸びっこない。」「こんなくだらないことを一生懸命やる奴の気がしれない。」本気で思っている訳ではない。でも、何か言わなければ今の自分がダメになる。ところが、親も教師もズレていて、キミの心の交通整理ができない。キミの発言をまともに受けて、一生懸命説得しようとする。キミは、本気で思っている訳ではなくて、そういうことしか思いつかなくて言っているのに(そういう事情に実はキミ自身も気付いていないが)、キミも大人も双方がズレたやり取りを展開する……。キミは、更に不快になり苦しくなる。

●どうしたらいいんだろう。実は、答えは簡単である。キミの主張は、実は心から願っている

ことではない。基準は心から思っていることをいう時は、真剣である、活き活きしているというところ。ところが、キミが口を開くときの顔は、一様に暗く、怒りや不安に満ちている。だから、キミの主張は、本心ではない。そして、キミが望んでいることは、別にある。やはり、「頑張りたい。」「伸びたい。」「合格したい。」と思つているのである。そう、答えはまず「自分の願望を認識すること。」そして、「やるべきことを少しずつでもいいから始めること。」これしかないのである。そうできないから苦しいのは分かるが、自分の願望を大事にするというのは、キミが一番しなければいけないことだし、したいと思つていることのはずだ。勇気を出して認める。そして動きだせ。キミを救えるのは、キミしかない。キミを本当に大事にできるのは、キミ自身なのだ。

●ところで、一つ提案。心の地図を描いてみないか。B4の用紙を半分折って、右に願望、左に嫌だと思つていること。思いつくまま書いてみる。一日かけてもよい。

親や教師のことを書いてもいい。これは、心を落ち着けて、再び歩き出すために絶対やるべきだ。人は同時にいろんなことを思つたり言語化したりすることはできない。書き出すことによって、次の判断がしやすくなる。書き出してから、改めて、自分は何を望むのか、そのためにどうするか選択するのだ。

●再言する。自分の願望をはっきり認識しろ。



そしてやるべきことをやれ。それが、実はキミ自身が一番望んでいることなのだから。

(小林(健))

今こそ

踏ん張れ

●10月から11月にかけて学校及び塾で生徒面談、保護者面談が行われました。それまで切迫感のなかった生徒たちも、徐々に顔つきに真剣さを増し、よし頑張るぞつという気持ちになつてきたようです。

●しかし、まだ志望校に向かつて頑張ろうという気持ちになかなかない生徒がいるのも事実です。

●話を聞いてみると、いろいろな答えが返ってきます。やろうという気持ちはあるのだけれど、なかなか机向かえない。焦つてしまつて何から手をつけていいのかわからない。やる気が出ないのでどうしようもないなど……。●

●気持ちはわかります。私は高校入試ではなんとか乗り切つたものの、大学入試では大変苦労しました。特に2学期、9月から11月まではどん底でした。やろうという気持ちはあつたものの、やるべきことから逃げて毎日テレビを観ているだけ……。夜中になつ



て、寝る間際に後悔の念が襲ってきます。毎日きちんと出来ない自分に腹が立ち、勉強以外の事をやっついても決して楽しくないし、心は全

く満たされていませんでした。

●SMAPに「夜空ノムコウ」という曲を提供したスガシカオ氏……。彼は何年前か、2年間全く曲がかけない大スランプに陥ったことがあるそうです。そのとき彼は、「うまくいかない時は、十歩前進しよう」とすると動けない。また失敗するのではないかと臆病になってしまふ。でも一歩だけならなんとか動けそう。毎日一歩だけ前進する」ことを考えていたそうです。

●勉強も同じです。うまくいかないときは欲張らずに、量を少なくして、しかもそれを毎日必ずやること。少ない量だと気持ち的に楽ですし、継続することも容易です。実は何か物事を成し遂げるためには、とにかく継続することが一番大事です。しかも、その継続をよりスムーズに行う秘訣は最初は量を少なくしてまず続けることなんです。例えば数学を1日1題でもいいのです。それを1週間続けます。1週間続けばしめたもの。次の2週間も歯を食いしばってやり続けます。3週間目、ここまでくるとせっかくな継続したのだから途絶えさせたくないという心理も働き順調に流れ出します。このときも量をいっぺんに増やさずに少しずつ少しずつ増やしていけばよいのです。ここまでくればしめたもの。1ヶ月もやれば30題、3ヶ月で90題も進めます。ただか1日1題でも積み重なると本当に大きいです。数学ならそれをやったノートが大きな自信になるでしょう。



夢・やりたいこと⑥

●ただし、なかにはそんなペースでは間に合わないと思う人もいるかもしれません。大丈夫です。まずは少しの量からスタートして軌道にのってきたら量を増やせばよいのです。確かに時間には迫ってきています。でもここは焦らずに一歩一歩前に進みましょう。今動けば十分間に合います。頑張れ受験生、負けるな受験生！
(白石)

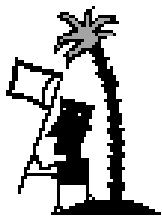
●ほとんどの人間が望んでいることは3つである。①打ち込めるものを見つけ、それに打ち込むこと。②認められること。③自分の生を支える経済力を持つこと。但し、きみ達は気付いていない。②と③が、人が生きていく上で極めて重要であることに。それは、きみ達が親をはじめめとして、祖父母や親類など多くの人達に、いろんな意味で守られているからだ。

●きみは、口うるさい親から小言を言われ、教師から説教をされ、うんざりしているかもしれない。しかし、きみに対して、全くの他人がそうやって関わってくるだろうか。親も教師も、そしてきみ達と塾の中で接している私達も、完成された人間ではない。だから、自分の人生もそれほどうまくはいっていかなくて、きみ達の心の在り様に考えが至らず下手な対応をしているのかもしれない。しかし、しかしである。全体として見れば、きみの周りの人達は、やはりきみ達のことを考えているのである。周りの人は

その人自身の成熟度に応じて、きみ達のことを思っているのである。よくも悪くも、きみの存在を認めているのである。きみが期待する認められ方は「賞賛」なのかもしれない、それはきみが望むほどにきみに与えられていないのは事実だろう。しかし、周りの人達は大半がきみの存在を大事だと思っているのである。きみが望む認め方と違うが、確かにきみを認めているのである。

●ところで、家を出たことはあるだろうか。引きこもったことはあるだろうか。とんでもない田舎から大都会に出て、身震いしたことはあるだろうか。知っている人が誰もいないことこの孤独感を味わったことがあるだろうか。組織の中で完全に孤立したことがあるだろうか。こうしたこと味わえば、小言しか言わなかった人のことさえ有難い。周りの人が自分に対して無関心であることの淋しさは耐え難い。「賞賛」の前に、自分の存在が、周りの人によって確かめられることは、実はものすごく有難いことなのである。

●きみは、明日から一人で生きていけるだろうか。住む所を探し、毎日の食事をとり、自分の生を自分だけの力で支えていけるだろうか。病気のことを想定し、働けなくなってきたことも考え、一人で生活していけるだろうか。きつと否である。塾の高校生の中には、「そういう状況になれば、立派にやるだろう」と思える人も何人かいる。しかし、大半は無理だ。い



▲▼▲継続希望の方へ▲▼▲

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。

創学舎の本

■愛の壁■

—お父さんお母さんお金の習子供編—
著者：小林 憲右
2006年5月1日発行 (1,500円税込)

新星堂他全国書店にて
好評発売中!

ろんな要素が欠けている。それでも生きていけるのは何故か。やはり守られているからだ。親が苦勞をして稼ぐお金によって、支えられているからだ。

●「認められること」と「経済力を持つこと」。これは、まさに人が人として生きていく上で欠かせない要素なのである。だから、きみ達は、これから、この2つを望め。強く強く望まなければならぬ。勿論、認められ方にも段階がある。経済力にも、いくつものレベルがあるだろう。それは、自分の気質と適性とこれから磨く能力に合わせ、望み方もその達成感も変わってくる。しかし、「認められたい」「経済力を持ちたい」の2つを自分の願望として、意識できるようにすることは、きみ達が生きていく上でとてもとても大事なことである。(以下、次号)
(小林(健))

